

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

村田 菜穂子*¹ 前川 武*²Adjectives in the Great Japanese Language Dictionary
Classified by Period-the Muromachi period volumeNahoko Murata *¹ Takeshi Maekawa *²

キーワード

室町時代、形容詞、語彙表、語彙史

I はじめに

語彙研究および語彙史研究の立場から、これまで上代から中世に亘る日本語形容詞・形容動詞語彙について、〔1〕語構造論および造語論の両観点から分析を行って、一つ一つの語の語構成を記述するとともに、〔2〕当該語彙の史的研究のための基礎資料としてさまざまな語彙表を作成・公表してきた。^(注1) また、一方では、語彙研究および語彙史研究分野の進展のための有益な資料となるべく、〔1〕および〔2〕の情報を蓄積したデータベースシステムを構築し、本資料を基にコンピュータによる量的データの分析的研究・実証的研究を行い、最終的には、「形容詞の語構成史」および「形容動詞の語構成史」を構築して、従来の研究方法では得られなかった知見を得ることを目標にこれまで研究を進めてきた。^(注2)

そして、本稿は、日本語形容詞語彙の史的研究のための基礎資料として、〔2〕の延長線上に位置づけ、室町時代の形容詞語彙を概観するために編集したものである。

室町時代の言語を知る資料としては、御伽草子や軍記物などの散文作品、今様や連歌などの韻文作品、抄物、キリシタン資料、さらに、能・狂言などの具体的文献資料が対象であり、辞典のような抽象語をそのまま室町時代語と扱うには問題がないわけではない。しかし、室町時代の言語資料とひとことで言っても、そのジャンルは多岐に亘っており、これらから当該語彙を採取し、その全貌を概観するまでの作業量が膨大であることは想像に難くない。また、今期の資料には口語文体であるさまざまな資料が含まれることから、鎌倉時代以前には見られなかった新造語の形容詞ないし形容動詞が多数出現することも先学の研究成果から推察されるところである。そこで、このような点を考慮し、具体的な文献の調査を完了するまでに室町時代の形容詞を概観する資料として、さらに、これまでには存在しなかった新たな語の認定の一助として、『時代別国語大辞典 室町時代編』〔2000・12〕

*1 むらた なほこ：大阪国際大学国際コミュニケーション学部准教授〈2011.10.4受理〉

*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

三省堂)を取り上げ、本辞典に採録された形容詞の全貌を明らかにすることにした。

周知のごとく、『時代別国語大辞典 室町時代編』は、当代に通用した語彙の解明を目的とした辞典であり、室町時代当時に使用されていたと考えられる語彙の収録を目的として編纂されたものである。見出し語は、[1] 親見出し語が基本であるが、このほか、[2] 親見出し語の末尾に、その語と何らかの関係があると考えられる事柄や語の解説を行っている【参考】に挙がっている語、さらに、[3] 複合語とは未だ考えにくい語などを親見出し語の後に小見出しとして配置したものがある。

たとえば、[2]として、本来ク活用である形容詞が臨時的にシク活用にはたらいた例(あきらけし・あやふしなど)やク活用からシク活用に転じた後、当代臨時的に再びク活用にはたらいた例(きびし)が挙がっており、当代の語彙の全貌を見る上では[2]として採録された語も見逃せない。また、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている点を重視するこれまでの方針に従えば、[3]として挙がっている語句についても当初より排除せず検討を行う必要があるものである。

以上のように、本稿では『時代別国語大辞典 室町時代編』に挙がっている[1] 親見出し語・[2]【参考】に挙がっている語・[3] 小見出しの語のうち、用例が示されているものを対象とし、これらの中から室町時代の形容詞を抽出する。なお、『時代別国語大辞典 室町時代編』における形容詞見出し語の語形は、古典語の終止形「一し」の形のもの以外に、口語の終止形「一い」であるものも見られ一律ではない。しかし、一見不統一に思えるこの点は、その語の用例が口語形しかないものか否かが区別できることがあり、「一し」形と「一い」形との併記には意味があるので、本稿では当該辞典における語形をそのまま踏襲して採録することを原則とする。

II 凡例

語彙表において示した項目の内容は以下のとおりである。

- [1]「見出し語」:『時代別国語大辞典 室町時代編』に挙がっている形容詞の見出し語
- [2]「漢字」:見出し語に付された、形容詞の主な意味を表す漢字(辞典の漢字を踏襲)
- [3]「活用」:見出し語に付された、形容詞の活用(ク活用またはシク活用または形容詞)
- [4]「備考1」:『時代別国語大辞典 室町時代編』が親見出し語としては挙げていないが、【参考】([2])または小見出し([3])として採録されている形容詞を本稿の見出し語として取り上げた場合にはそれがわかるようにした。
- [5]「備考2」:これまでに公表した資料^(注1)で、その見出し語が使用されている場合には「○」印を付けた。また、その見出し語とは同一の音形態ではないが、以下の①~④に示すように、これまでに公表した資料に存在すると考えられる場合にはその形容詞を記入した。

①子音交替形または母音交替形

例:いむせし⇔いぶせし (m ⇔ b)

かまびそし⇔かまびすし (o ⇔ u)

②撥音の表記に関わるもの

例：やごとなし⇔やむごとなし

やんごとなし⇔やむごとなし

③促音を挿入したもの

例：につくし⇔にくし

④その他

例：ゆひかひなし⇔いひかひなし

【付記】

本稿は、日本学術振興会平成22-24年科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号22520479）による研究成果の一部である。

注1 これまでに作成・公表した語彙表を、対象とした作品および作品群（【 】で囲んだもの、以下同じ）毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記（仮名書き部分）・日本書紀（同）・風土記（同）・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古今集』

【訓点資料】

『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』『神田本白氏文集卷第三・四』『高山寺本古往来』

【今昔物語集】

『今昔物語集』

【軍記物語】

『保元物語』『平治物語』『平家物語』

以下は、作品または作品群毎の語彙表

【中古散文作品】

「中古散文作品における形容動詞対照語彙表」『大阪国際女子大学紀要』26-2 [2001・3]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

「古代語形容詞の語構成」『大阪国際女子大学紀要』27-1 [2001・9]

「古代語形容詞逆引き対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-1 [2002・10]

【訓点資料】

「訓点資料の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』17-1 [2003・10]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

「形容詞・形容動詞の語彙論的研究」[2005・11 和泉書院]

【今昔物語集】

- 「今昔物語集の形容動詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』18-2 [2005・1]
 「今昔物語集の形容詞対照語彙表—天竺・震旦部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』22-3 [2009・3]
 「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝仏法部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-1 [2009・10]
 「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝世俗部—」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]

【軍記物語】

- 「軍記物語の形容動詞対照語彙表」『帝塚山学院大学日本文学研究』38 [2007・2]
 「軍記物語の形容詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-3 [2008・3]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】【今昔物語集】【軍記物語】

- 「改訂・増補 古代語形容詞の語構成—上代～中世編—」『帝塚山学院大学日本文学研究』41 [2010・2]
 「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（前編）」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』24-3 [2011・3]
 「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（後編）」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-1 [2011・10]
 「『形容詞対照語彙表』補遺」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]

注2 これまでの研究成果を、対象とした作品群毎に示す。

【上代資料】

- 「上代形容詞の語構成」『国語語彙史の研究』20 [2001・3 和泉書院]

【八代集】

- 「八代集の形容詞—語構成論的考察—」『帝塚山学院大学日本文学研究』32 [2001・2]
 「八代集の形容詞—語彙の計量的分析—」『甲南国文』48 [2001・3]

【中古散文作品】

- 「ゲナリ型形容動詞—造語力拡大の様相について—」『国語語彙史の研究』18 [1999・3 和泉書院]
 「平安時代の形容動詞—ゲナリと～カナリ—」『国語学』52-1 [2001・3]
 「中古散文の形容詞—語彙の数量的分析—」『表現研究』74 [2001・10]
 「古代語形容詞の造語形式—中古散文の形容詞を中心に—」『帝塚山学院大学日本文学研究』33 [2002・2]
 「中古散文22作品の類似度の測定」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-1 [2007・10]
 「中古散文22作品の分類についての一試み」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-3 [2010・3]

【八代集】【中古散文作品】

- 「中古形容詞における特有語の性格」『帝塚山学院大学日本文学研究』36 [2005・2]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

- 「語構造から見た古代語形容詞—二つの系列—」『帝塚山学院大学日本文学研究』34 [2003・2]
 「古代語形容詞の語構造分析についての一考察」『国語語彙史の研究』22 [2003・3 和泉書院]
 「古代語形容詞の階層構造」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-2 [2003・3]
 「上代形容詞の継承性と中古新出の形容詞」『滋賀大國文』41 [2003・7]
 「形容詞・形容動詞語彙の量的構成—中古散文作品を中心に—」『日本語学』25-5 [2006・4]
 「形容詞の生産性に関する一考察」『表現研究』86 [2007・10]
 「ク活用形容詞とシク活用形容詞の量的性格と語構成」『国語語彙史の研究』28 [2011・3 和泉書院]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

- 「訓点資料の形容詞—語彙の量的性格—」『帝塚山学院大学日本文学研究』35 [2004・2]
 「中古形容詞の量的性格—既存の形容詞と新出の形容詞—」『滋賀大國文』42 [2004・7]
 「形容詞・形容動詞の語彙論的研究」[2005・11 和泉書院]

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

【今昔物語集】

「今昔物語集の形容動詞—語種からの分析を中心に—」『国語語彙史の研究』24 [2005・3 和泉書院]

「今昔物語集の形容動詞—～ゲナリと～カナリ（一）—」『滋賀大國文』43 [2005・7]

「今昔物語集のカナリ型形容動詞」『帝塚山学院大学日本文学研究』37 [2006・2]

【軍記物語】

「軍記物語の形容動詞の一考察」『国語語彙史の研究』26 [2007・3 和泉書院]

「軍記物語の形容詞についての一考察」『国語語彙史の研究』28 [2009・3 和泉書院]

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
あいあいし	愛愛し	シク		
あいぎやうがまし	愛敬がまし	シク		
あいさうらし	愛さうらし	シク		
あいそうらし	愛そうらし	シク		
あいぞらし	愛ぞらし	シク		
あいだちなし		ク		
あいだてなし		ク		
あいなし		ク		○
あいらし	愛らし	シク		
あかあかし	赤赤し	シク		
あかくさし	垢臭し	ク		
あかぐろし	赤黒し	ク		
あかし	明し	ク		○
あかし	赤し	ク		○
あかぶかし	垢深し	ク		
あかるし	明し	ク		
あきらけし	明けし	ク		○
あきらけし	明けし	シク	参考	
あくらし	悪し	シク		
あけらけし	明けし	シク		
あさあさし	浅浅し	シク		
あざあざし	鮮鮮し	シク		
あざからし	浅からし	ク		
あざからし	浅からし	シク	参考	
あざぐろし	浅黒し	ク		
あさし	浅し	ク		○
あさすさまじ	朝冷し	シク		
あさまし	浅まし	シク		○
あざやかし	鮮し	ク		
あざらけし	鮮し	ク		
あし	悪し	シク		○
あしあらがまし		シク		
あしばやし	足速し	ク		
あせがまし	汗がまし	シク		
あせくさし	汗臭し	ク		
あせぐらうし	汗ぐらうし	シク		
あたあたし		シク		
あだあだし	徒徒し	シク		○
あたかし		ク		
あだかし		ク		
あだし	徒し	シク	参考	○
あたたかし	温し・暖し	ク		
あたたし		シク		
あだなし	徒なし	ク		
あたらし	可憎し	シク		○
あたらし	新し	シク		○
あぢきなし	味気無し	ク		○
あぢなし	味無し	ク		○
あつかはし	扱し	シク		○
あつかはし	暑かはし	シク		○
あつかまし	厚かまし	シク		
あつくらうし	暑くらうし	シク		
あつくらはし	暑くらはし	シク		
あつし	厚し・篤し	ク		○
あつし	暑し・熱し	ク		○
あつし	篤し	シク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
あつたらし	可憎し	シク		
あてあてし	当し	シク		
あてらし		ク		
あとなし	跡無し	ク		○
あどなし		ク		
あとほかなし	跡ほかなし	ク		○
あはあはし	淡淡し	シク		○
あほうらし	阿房し	シク		
あはし	淡し	ク		○
あはつけし	淡つけし	ク		○
あはよし	間好し	ク		
あはれがまし	哀がまし	シク		
あはれし	哀し	シク		○
あひおなじ	相同じ	シク		○
あひだてなし		ク		
あひちかし	相近し	ク		
あぶなし	危し	ク		○
あぶらこし	脂濃し	ク		
あへなし	敢なし	ク		○
あまくさし	甘臭し	ク		
あまし	甘し	ク		○
あましげし	雨繁し	ク		
あまずし	甘酸し	ク		
あまねし	遍し・普し	ク		○
あやし	怪し	シク		○
あやなし	文無し	ク		○
あやふし	危し	ク		○
あやふし	危し	シク	参考	
あやぶまし	危し	シク		
あらあらし	荒荒し	シク		○
あらあらし	粗粗し	シク		○
あらかまし	荒かまし	シク		
あらくまし	荒くまし	シク		
あらくもし	荒くもし	シク		
あらけなし	荒けなし	ク		○
あらし	荒し	ク		○
あらし	粗し	ク		○
あらまし	荒し	シク		○
あらまほし(注1)		シク		○
ありありし	在在し	シク		○
ありがたし	有難し	ク		○
ありつかうし	有付し	シク		
ありつかはし	有付し	シク		
あるめかし	有めかし	シク		
あわたたし	慌し	シク		○
あをくさし	青臭し	ク		
あをぐるし	青黒し	ク		
あをし	青し	ク		○
あをじろし	青白し	ク		
いかい	厳い	形		
いかいかし	厳厳し	シク		
いかがし	如何し	シク		
いかし	厳し	ク		
いかめい	厳い	形		
いかめし	厳し	シク		○
いきだうし	息だうし	シク		

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
いぎたなし	寢穢し	ク		○
いきだはし	息だはし	シク		
いきづかし	息づかし	シク		○
いきづかはし	息づかはし	シク		
いくひさし	幾久し	シク		
いけんがまし	異見がまし	シク		
いさぎよし	潔し	ク		○
いざとし	寢聡し	ク		○
いさまし	勇し	シク		○
いし	美し	シク		○
いしし	以次以次し	シク		
いしだけし	石だけし	ク		
いそがし	忙し	シク		○
いそがはし	忙し	シク		○
いそくさし	磯臭し	ク		
いそし	勤し	シク		○
いたいけらし	幼気らし	シク		
いたいたし	痛痛し	シク		
いたかがまし		シク		
いたがゆし	痛痒し	ク		
いたけし	痛し	ク		
いたし	痛し	ク		○
いたづがはし	勞し	シク		○
いたはし	勞し	シク		○
いたまし	痛し・傷し	シク		○
いちしるし	著し	ク		○
いちしるし	著し	シク		
いちしろし	著し	ク		○
いちはやし	いち早し	ク		○
いづくし	厳し・美し	シク		○
いつたうし	甚し	シク		
いつたし	甚し	シク		
いつとなし	何時なし	ク		
いときなし	幼し・稚し	ク		○
いとけなし	幼し・稚し	ク		○
いとし		シク		○
いとどし		シク		○
いとなし	暇無し	ク		○
いとほし	厭し	シク		○
いとほし		シク		○
いはけなし	稚し	ク		○
いひがひなし	言甲斐無し	ク		○
いひにくし	言悪し	ク		○
いぶかし	訝し	シク		○
いふかひなし	言甲斐無し	ク		○
いぶせし		ク		○
いへたかし	家高し	ク		
いはいまし	疣疔し	シク		
いまいまし	忌忌し	シク		○
いまいまし	忌忌はし	シク		
いまだし	未だ	シク		○
いまはし	忌し	シク		○
いまめかし	今めかし	シク		○
いまめかはし	今めかはし	シク		
いみいみし		シク		
いみじ		シク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
いむせし		ク		いぶせし
いやい	卑い	形		
いやけし	彌怪し	シク		
いやし	賤し・卑し	シク		○
いやたかし	彌高し	ク		○
いやめづらし	彌珍し	シク		
いよいよし	彌し	シク		
いよし		シク		
いらいらし	苛苛し	シク		
いらひどし	苛醜し	シク		
いろいろし	色々し	シク		
いろなし	色無し	ク		○
いろにくし	色憎し	ク		
いろめかし	色めかし	シク		○
うかうかし		シク		
うけらうし	受らうし	シク		
うし	憂し	ク		○
うしろぎたなし	後穢し	ク		
うしろぐらし	後暗し	ク		
うしろつよし	後強し	ク		
うしろべたなし	後べたなし	ク		うしろめたなし
うしろめたし	後めたし	ク		○
うしろめたなし	後めたなし	ク		○
うすあかし	薄赤し	ク		
うすあせし	薄青し	ク		
うすかうばし	薄香し	シク		
うすぐらし	薄暗し	ク		
うすぐろし	薄黒し	ク		
うすし	薄し	ク		○
うすじろし	薄白し	ク		○
うすひらし	薄平し	ク		
うすらにくし	薄憎し	ク		
うぞあかし	うぞ明し	ク		
うぞあまし	うぞ甘し	ク		
うそがなし	うそ悲し	シク		
うそがまし	嘘がまし	シク		
うそがゆし	うそ痒し	ク		
うそぐらし	うそ暗し	ク		
うそぐろし	うそ黒し	ク		
うそさむし	うそ寒し	ク		
うそすごし	うそ凄し	ク		
うそすさまし	うそ凄し	シク		
うそせばし	うそ狭し	ク		
うそたかし	うそ高し	ク		
うそつらにくし	うそ面憎し	ク		
うそはづかし	うそ恥し	シク		
うそぶかし	うそ深し	ク		
うたがはし	疑し	シク		○
うたてし	転し	ク		○
うたてし	転し	シク		
うつうつし	鬱鬱し	シク		
うつくし	美し	シク		○
うつたうし	鬱陶し	シク		
うづたかし	堆し	ク		○
うつつなし	現無し	ク		
うつつらにくし	うつつら憎し	ク		

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
うつとし	鬱陶し	シク		
うつぼづかし	打恥し	シク		
うつろひやすし	移易し	ク		○
うとうとし	疎疎し	シク		○
うとし	疎し	ク		○
うとまし	疎し	シク		○
うなじ	同じ	ク		
うひうひし	初初し	シク		○
うへなし	上無し	ク		○
うまうまし	甘甘し	シク		
うまし	甘し・旨し	ク		○
うまだけし	馬猛し	ク		
うまつよし	馬強し	ク		
うやうやし	恭し	シク		○
うやまはし	敬し	シク		
うらいまし	羨し	シク		
うらうらし		シク		
うらがなし	心悲し	シク		○
うらこし	裏濃し	ク		
うらさびし	心寂し	シク		○
うらなし	心無し・裏無し	ク		○
うらまし	恨し	シク		
うらめし	恨し	シク		○
うらめづらし	心珍し	シク		○
うらやまし	羨し	シク		○
うらわかし	うら若し	ク		○
うるさし	煩し	ク		○
うるしくさし	漆臭し	ク		
うるせし		ク		○
うるはし	麗し	シク		○
うれし	嬉し	シク		○
うれしがなし	嬉し悲し	シク		
うれたし		ク		○
うれはし	憂し	シク		○
えい	良い	形		
えずい		形		
おおそれおほし	恐多し	ク		
おおそれがまし	恐がまし	シク		
おきうし	起憂し	ク		○
おくだのもの	奥頼し	シク		
おくふかし	奥深し	ク		○
おくゆかし	奥ゆかし	シク		○
おこのけなし		ク		
おぞし	悍し	ク		
おぞまし	悍し	シク		おぞまし
おぞいし		シク		
おそうくさし	御僧臭し	ク		
おそし	遅し	ク		○
おそし	恐し	シク		
おぞし	悍し	ク		○
おそばちかし	御側近し	ク		
おぞまし	悍し	シク		○
おそれおほし	恐多し	ク		
おそれがまし	恐がまし	シク		
おそろし	恐し・畏し	シク		○
おだし	穩し	シク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
おちくほし	落魄し	ク		
おとながまし	大人がまし	シク		
おとなげなし	大人気無し	ク		○
おとなし	大人し	シク		○
おとなしげなし	大人し気無し	ク		
おとまし	疎し	シク		うとまし
おどろおどろし		シク		○
おどろし		シク		
おどろし		シク		
おなじ	同じ	シク		○
おびたし	夥し	シク		○
おほあつし	大暑し	ク		
おほいそがし	大忙し	シク		
おほかたなし	大方なし	ク		
おほきい	大い	形		
おほぐらし	おほ暗し	ク		
おほけなし	大気なし	ク		○
おほし	多し	ク		○
おほし	思し・覚し	シク		○
おほせらしい	仰らしい	形		
おほつかなし	覚束なし	ク		○
おほひさし	大久し	シク		
おほろくらし	臆暗し	ク		
おほろけなし	臆なし	ク		○
おめおめし		シク		
おもおもし	重重し	シク		○
おもきはらし	面嫌はし	シク		
おもし	重し	ク		○
おもしろし	面白し	ク		○
おもしろをかし	面白をかし	シク		
おもたし	重し	ク		○
おもだたし	面立し	シク		○
おもてづよし	面強し	ク		
おもてつれなし	面つれなし	ク		
おもなし	面無し	ク		○
おもはし	思し	シク		○
おもはづかし	面恥し	シク		
おもはゆし	面映し	ク		○
おもひがけなし	思掛無し	ク		
おもひぐまなし	思畏なし	ク		○
おもひぐるし	思苦し	シク		○
おもひでがまし	思出がまし	シク		
おもぶせし	面伏し	シク		
おやげなし	親気無し	ク		○
おやじ	同じ	シク		○
およびなし	及なし	ク		○
おろし	恐し	シク		
かいい	痒い	ク		
かうがうし	神神し	シク		○
かうじくさし	麴臭し	ク		
かうばし	香し	シク		○
かかはやし		ク		
かかはゆし		ク		
かかりがまし	懸がまし	シク		
かざりがまし	限がまし	シク		
かざりなし	限無し	ク		○

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
かぐさし	香臭し	ク		
かぐはし	香し・芳し	シク		○
かくれなし	隠無し	ク		○
かぐろし	か黒し	ク		○
かしかまし		シク		○
かしこし	畏し・賢し	シク		○
かしまし	喧し	シク		○
かたくなし	頑し	シク		○
かたくなはし	頑し	シク		○
かたくへなし		ク		
かたし	堅い・固し	ク		○
かたし	難し	ク		○
かたじけなし	忝し・辱し	ク		○
かたなし	形無し	ク		○
かたはし	片端し	シク		
かたはらいだし	傍痛し・片腹痛し	ク		○
かたはらさびし	傍寂し	シク		○
かだまし	姦し・姦し	シク		○
かたわかし	片若し	ク		
かどかどし	角角し	シク		
かどがまし	角がまし	シク		
かどまし	角まし	シク		
かなくさし	金臭し	ク		
かなし	愛し・悲し・哀し	シク		○
かはいい		形		
かはゆし		ク		○
かはゆらし		シク		
かはよし		ク		
かひがはし	甲斐がはし	シク		
かひがひし	甲斐甲斐し	シク		○
かひしやうなし	甲斐性無し	ク		
かひだるし	腕弛し	ク		
かひなし	甲斐無し	ク		○
かひなだゆし	腕弛し	ク		
かほよし	顔佳し	ク		○
かまびすし	喧し	ク		○
かまびすし	喧し	シク		
かまびそし	喧し	シク		かまびすし
かやすし	か易し	ク		○
かゆし	痒し・癢し	ク		○
かよわし	か弱し	ク		○
からし	辛し・鹹し	ク		○
かるがるし	輕輕し	シク		○
かるし	軽し	ク		○
かるがるし	輕輕し	シク		○
かろし	軽し	ク		○
かんばんし	香し・芳し	シク		
きかまほし	聞まほし	シク		
ききぐるし	聞苦し	シク		○
ききどほし	聞遠し	ク		
ききにくし	聞悪し	ク		○
ききよし	聞良し	ク		○
きぐるし	気苦し	シク		
きごつなし		ク		
きたなし	穢し・瀆し	ク		○
きづかはし	気遣し	シク		

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
きつし		ク		
きつねがまし	狐がまし	シク		
きはきはし	際際し	シク		○
きはどし	際利し	ク		
きはなし	際無し	ク		
きはまりなし	極無し	ク		○
きはめなし	極無し	ク		
きばやし	気早し	ク		
きびし	密し・厳し	ク	参考	○
きびし	密し・厳し	シク		○
きぶし		ク		
きむさし	気むさし	ク		
きもぶとし	肝太し	ク		
ぎやうぎやうし		シク		
きやくしんがまし	隔心がまし	シク		
ぎようぎようし		シク		
ぎようらし		シク		
きよし	清し	ク		○
きらきらし	煌煌し	シク		○
きははし	嫌し	シク		○
ぎりがたし	義理堅し	ク		
くさし	臭し	ク		○
くさぶかし	草深し	ク		○
くせぐせし	曲曲し	シク		○
くそくさし	糞臭し	ク		
くだくだし		シク		○
くちおそし	口遅し	ク		
くちおもし	口重し	ク		
くちがまし	口がまし	シク		
くちがろし	口軽し	ク		くちがるし
くちききがまし	口利がまし	シク		
くちぎたなし	口穢し	ク		
くちぎよし	口清し	ク		○
くちごほし	口強し	ク		○
くちさがなし	口さがなし	ク		○
くちとし	口疾し	ク		○
くちはづかし	口恥し	シク		
くちばやし	口早し	ク		○
くちひろし	口広し	ク		
くちぶとし	口太し	ク		
くちぼそし	口細し	ク		
くちほどもなし	口程も無し	ク		
くちをし	口惜し	シク		○
ぐづぐづし		ク		
くどくどし		シク		
くどし		ク		
くはし	精し・委し	シク		○
くはし	窪し	ク		○
くまぐまし	隈隈し	シク		○
くまなし	隈無し	ク		○
くみしやすし	与易し	ク		
くもらはし	震し	シク		○
くやくやし		シク		
くやし	悔し	シク		○
くらし	暗し	ク		○
くらしがたし	暮難し	ク		○

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
くらづよし	鞍強し	ク		
くらべぐるし	比苦し	シク		○
くるし	苦し	シク		○
くれぐれし	呉呉し	シク		
くろし	黒し	ク		○
げうげうし		シク		
けうとし	気疎し	ク		○
けがし	穢し	シク		
けがらうし	穢し	シク		
けがらはし	穢し	シク		○
けけし		シク		
けざとし	け敏し	ク		
けし	怪し	シク		○
げすげすし	下衆下衆し	シク		○
げすし	下衆し	ク		
げすし	下衆し	シク		
げすぢかし	下衆近し	ク		
げすとほし	下衆遠し	ク		
けたかし	気高し	ク		○
けたまし		シク		
けぢかし	気近し	ク		○
けなりい	異なりい	形		
けにくし	気憎し	ク		○
げにげにし	実実し	シク		
げにもらし	実もらし	シク		
けはし	険し	シク		○
けぶかし	毛深し	ク		○
げふげふし		シク		
けぶたし	煙たし	ク		○
げふらし		シク		
けむたし	煙たし	ク		けぶたし
けやけし	尤し	ク		○
こがしこし	小賢し	ク		
こがたし	小固し	ク		
こがらし	小辛し	ク		
こがるし	小軽し	ク		
こがれくさし	焦臭し	ク		
こぐさし	小臭し	ク		
こぐらし	小暗し	ク		○
こぐらし	木暗し	ク		○
こぐろし	小黒し	ク		
こげくさし	焦臭し	ク		
こころあさし	心浅し	ク		○
こころいそがはし	心忙し	シク		
こころいたし	心痛し	ク		○
こころうたし	心憂し	ク		○
こころうつくし	心愛し	シク		○
こころうれし	心嬉し	シク		
こころおほし	心多し	ク		
こころおもしろし	心面白し	ク		
こころかるし	心軽し	ク		○
こころかるし	心軽し	ク		○
こころきたなし	心汚し	ク		○
こころぐるし	心苦し	シク		○
こころこはし	心強し	ク		○
こころすくなし	心少し	ク		

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
こころすごし	心凄し	ク		○
こころすずし	心涼し	シク		
こころせばし	心狭し	ク		○
こころたかし	心高し	ク		○
こころたけし	心猛し	ク		
こころづきなし	心付無し	ク		○
こころづよし	心強し	ク		○
こころとし	心疾し	ク		○
こころながし	心長し	ク		○
こころなし	心無し	ク		○
こころにくし	心憎し	ク		○
こころはやし	心早し	ク		
こころぶかし	心深し	ク		○
こころぶとし	心太し	ク		
こころほそし	心細し	ク		○
こころみじかし	心短し	ク		○
こころむつかし	心むつかし	シク		
こころもとなし	心許なし	ク		○
こころやすし	心安し	ク		○
こころやまし	心疾し	シク		○
こころよし	心良し・快し	ク		○
こころよわし	心弱し	ク		○
こころわろし	心悪し	ク		
ござかし	小賢し	シク		
ござなし	御座無し	ク		
ござびし	小寂し	シク		
ござむし	小寒し	ク		
こし	濃し	ク		○
こしげし	木繁し	ク		○
こしだかし	腰高し	ク		
こしつがまし	故実がまし	シク		
こじれたい	小じれたい	形		
こすごし	小凄し	ク		
こすさまじ	小凄し	シク		
こすし	小酔し	ク		
こすし	狡し	ク		
こすずし	小涼し	シク		
こそばゆし		ク		
こだかし	小高し	ク		
こだかし	木高し	ク		○
こたのし	小楽し	シク		
こちいさし	こ小さし	ク		
こちくろうし		シク		
こちたし	事痛し	ク		○
こちなし	骨無し	ク		○
こつがまし	骨がまし	シク		
こつなし	骨無し	ク		
ことあし	事悪し	シク		○
ことあたらし	事新し	シク		○
こといそがはし	事忙し	シク		
ことおほし	事多し	ク		
ことがまし	事がまし	シク		
ことがまし	言がまし	シク		○
ことかまびすし	言喧し	ク		
ことごとし	事事し	シク		○
ことこはし	事強し	ク		

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
ことさびし	事寂し	シク		
ことしげし	事繁し	ク		○
ことすさまじ	事凄し	シク		
ことぞうぞうし	事し	シク		
ことながし	事長し	ク		○
ことなし	事無し	ク		○
ことなし(注2)	殊なし	ク		○
ことばおほし	言葉多し	ク		
ことばこほし	言葉強し	ク		
ことばさかし	言葉賢し	シク		
ことひろし	事広し	ク		
ことむつかし	事むつかし	シク		
ことめづらし	事珍し	シク		
ことよし	言良し	ク		○
ことよし	事良し	ク		○
ことよろし	事宜し	シク		
こなまぐさし	小腥し	ク		
こにくし	小憎し	ク		
こねむし	小眠し	ク		
このまし	好し	シク		○
このもし	好し	シク		○
こはごはし	強強し	シク		○
こはし	強し・剛し・恐し	ク		○
こばやし	小早し	ク		
こばやし	子早し	ク		
こびくし	小低し	ク		
こひし	恋し	シク		○
こぶかし	木深し	ク		○
こほぞし	小細し	ク		
こまかし	細し	シク		
こまごまし	細細し	シク		
こまし	細し	ク		
こまるし	小丸し	ク		
こむつかし		シク		
こめかうし	小目かうし	シク		
こやさし		シク		
こよなし		ク		○
こわびかし	声低し	ク		
さいかくがまし	才覚がまし	シク		
さいくがまし	細工がまし	シク		
ざうさがまし	造作がまし	シク		
さうざし	寂寞し	シク		
さうみなし	相違無し	ク		
さかくさし	酒臭し	ク		
さかざかし	賢賢し	シク		○
さかし	賢し	シク		○
さがし	險し	シク		○
さがなし	祥無し	ク		○
さくい		形		
さしいでがまし	差出がまし	シク		
さしでがまし	差出がまし	シク		
さたがまし	沙汰がまし	シク		
さたなし	沙汰無し	ク		
さだめなし	定無し	ク		○
さつつべし		ク		
さつつべらしい		形		

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
さとし	聡し	ク		○
さはりなし	障無し	ク		○
さびさびし	寂寂し	シク		
さびし	寂し	シク		○
さぶし	寒し	ク		○
ざぶとし	ざ太し	ク		
さまあし	様悪し	シク		○
さまうし		シク		
さまし		シク		
さみし	寂し	シク		
さむけし	寒けし	ク		○
さむし	寒し	ク		○
さもし		シク		
さもとらし		シク		
さやうめかし	然様めかし	シク		
さやけし		ク		○
ざらい		形		
ざりがたし	避難し・去難し	ク		○
ざりがたなし	避難なし	ク		
ざりげなし		ク		○
ざるげなし		ク		○
ざるべかし	然べかし	シク		
ざるめかし	然めかし	シク		
ざれことぶかし	戯言深し	ク		
さわがし	騒し	シク		○
ざんなし	慙無し	ク		
しかしかし	確確し	シク		
しがたし	為難し	ク		○
しがたなし	仕方無し	ク		
しかりつべし	然つべし	シク		
しかるべし	然べし	ク		
しかるべし	然べし	シク		
しげし	繁し	ク		○
しげない		形		
したし	親し	シク		○
したたるし		ク		
したはし	慕し	シク		○
したるし		ク		
じちらかし	実らかし	シク		
じちらし	実らし	シク		
しづけし	静し	ク		○
しづこころなし	静心無し	ク		○
しっこし		ク		
じつらし	実らし	シク		
しどけなし		ク		○
しとし	等し	シク		
しにくし	為悪し	ク		○
しにちかし	死近し	ク		
しのぼし	偲し	シク		
しははゆし	鹹し	ク		
しぶし	渋し	ク		○
しぶにがし	渋苦し	ク		
しほからし	塩辛し	ク		○
しほはやし	塩はやし	ク		
しほはゆし	塩はゆし	ク		
しほらし		シク		

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
じやうごはし	情強し	ク		
しやうだいなし	正体無し	ク		
しやうねらし	性根らし	シク		
しやうらかしい	姓名	形		
じやうらふし	上臈し	シク		○
しやちこはし	鱈強し	ク		
じゆくしくさし	熟柿臭し	ク		
しゆつけらし	出家らし	シク		
じゆつなし	術無し	ク		
しらしらし	白白し	シク		○
しらながい	白長い	形		
しるし		ク		○
しるし	著し	ク		○
しれがまし	疾がまし	シク		○
しろし	白し	ク		○
しわし	吝し	ク		
しわつけなし	吝つけなし	ク		
しわらくさし	しわら臭し	ク		
じんとうらしい	実頭らしい	形		
すえくさし	饑臭し	ク		
すくし	健し	シク		
すくなし	少し	ク		○
すげなし		ク		○
すこし(注3)	少	シク		
すごし		ク		○
すさまじ	寒し・冷じ	シク		○
すし	酸し	ク		○
すずし	涼し	シク		○
すずどし		ク		○
すすまし	進し	シク		
すずまし	涼し	シク		
すずろがまし		シク		
すぢともなし	筋とも無し	ク		
すちなし	筋無し	ク		
すつなし	すつ無し	ク		
ずつなし	術無し	ク		
すねし	拗し	ク		
すべなし	便無し	ク		○
すぼし	窄し	ク		
すまじなし		ク		
すみうし	住憂し	ク		○
すみよし	住良し	ク		○
するどし	鋭し	ク		
すゑだのもの	未頼し	シク		
すゑどほし	未遠し	ク		
すゑながし	未長し	ク		
すんない		形		
せからしい		形		
せきせきし	戚戚し	シク		
せじなし		ク		
せせかはし		シク		
せせかまし		シク		
せせりむつかし		シク		
せちなし	切なし	ク		
せちべんなし	世智弁なし	ク		
せつせつし	切切し	シク		

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
せつなし	切なし	ク		
せはし	忙し	シク		
せばし	狭し	ク		○
せばし	狭し	シク		○
せはしなし	忙しなし	ク		
せはせはし	忙忙し	シク		
せばせばし	狭狭し	シク		○
せまし	狭し	ク		せばし
せまじなし		ク		
そうぞうし	忿忿し	シク		
ぞくがまし	俗がまし	シク		
ぞくたしい	俗たしい	形		
ぞくらし	俗らし	シク		
そこさむし	底寒し	ク		
そこすさまじ	底寒じ	シク		
そこにくし	底憎し	ク		
そこわるし	底悪し	ク		
そぞかうしい		形		
そぞかはし		シク		
そぞろさむし	そぞろ寒し	ク		○
そぞろはし		シク		○
そつけなし	素気なし	ク		
そねまし	嫉し	シク		○
そばそばし	稜稜し	シク		○
そらおそろし	空恐し	シク		○
そらはづかし	空恥し	シク		○
たかし	高し	ク		○
たくまし	逞し	シク		○
たけし	猛し	ク		○
たけし	猛し	シク		○
ただけし	猛猛し	シク		
ただし	正し	シク		○
たづたづし		シク		○
たつとし	尊し	ク		
たどたどし		シク		○
たのし	楽し	シク		○
たのみずくなし	頼少し	ク		○
たのみなし	頼無し	ク		○
たのもし	頼し	シク		○
たのもしげなし	頼無し	ク		○
たふとし	尊し	ク		○
たへがたし	堪難し	ク		○
たやすし	輒し	ク		○
たゆし	弛し	ク		○
たるし	倦し	ク		
ちかし	近し	ク		○
ちかし	近し	シク		○
ちかちかし	近近し	シク		○
ちからなし	力無し	ク		○
ちくさし	乳臭し	ク		
ちさし	小し	ク		
ちなまぐさし	血腥し	ク		
ちひさし	小し	ク		○
つきなし	付無し	ク		○
つしみぐろし	黧黒し	ク		
つたなし	拙し	ク		○

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
つつがなし	恙無し	ク		○
つつしみぐろし	黧黒し	ク		
つつまし	愼し	シク		○
つづまし	約し	シク		
づなし	罔無し	ク		
つべつべし		シク		
つべらし		シク		
つぼし		ク		
つまし		シク		
つめたし	冷し	ク		○
つゆけし	露けし	ク		○
つよし	強し	ク		○
つらし	辛し	ク		○
つらにくし	面憎し	ク		
つれなし		ク		○
つをし	強し	ク		
ていたし	手痛し	ク		○
てうはふらし	調法らし	シク		
ておぞし	手遅し	ク		
ておもし	手重し	ク		
てがたし	手堅し	ク		
てがまし	手がまし	シク		
てがるし	手軽し	ク		
てこい		ク		
てごはし	手強し	ク		○
てしげし	手繁し	ク		
てせばし	手狭し	ク		
てぢかし	手近し	ク		
てづよし	手強し	ク		
てどほし	手遠し	ク		
てぬるし	手緩し	ク		
てねばし	手粘し	ク		
てばしかし	手ばしかし	ク		
てばてばし		シク		
てばやし	手早し	ク		
てびろし	手広し	ク		
てふてふし	喋喋し	シク		
てまたし	手全し	ク		
てむさし	手むさし	ク		
てやすし	手安し	ク		
てよわし	手弱し	ク		
どくどくし	毒毒し	シク		
どくらし	毒らし	シク		
どころせきなし	所狭なし	ク		
ところせし	所狭し	ク		○
とぎまがまし	外様がまし	シク		
とし	疾し	ク		○
とほかし	惚し	シク		
とほし	遠し	ク		○
とほし	乏し	シク		○
とほしろし	遠白し	ク		○
とほどほし	遠遠し	シク		○
ともし	乏し	シク		○
ながし	長し	ク		○
ながながし	長長し	シク		○
なげかし	歎し	シク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
なげかはし	歎し	シク		○
なごりをし	名残惜し	シク		○
なさけがまし	情がまし	シク		
なさけなし	情無し	ク		○
なさけらし	情らし	シク		
なし	無し	ク		○
なぞへなし	準無し	ク		
なたかし	名高し	ク		○
なつかし	懐し	シク		○
なにごころなし	何心無し	ク		○
なほし	直し	ク		○
なまぐさし	生臭し	ク		○
なまし	生し	シク		○
なまづけなし		ク		
なまなまし	生生し	シク		○
なまぬるし	生温し	ク		
なまめかし	生めかし	シク		○
なみだがたし	涙固し	ク		
なみだもろし	涙脆し	ク		○
なやまし	悩し	シク		○
なるし		ク		
なれなれし	馴馴し	シク		○
にあはし	似合し	シク		
にがし	苦し	ク		○
にがにがし	苦苦し	シク		○
にぎにぎし	賑賑し	シク		
にぎはし	賑し	シク		
にぎははし	賑し	シク		○
にくし	憎し	ク		○
にげなし	似気無し	ク		○
につかはし	似つかはし	シク		○
につくし	憎し	ク		にくし
になし	二無し	ク		○
にぶし	鈍し	ク		○
ぬくし	温し	ク		
ぬるし	温し	ク		○
ねがはし	願し	シク		○
ねごし	寝濃し	ク		
ねたし	妬し	ク		○
ねたし	妬し	シク		○
ねたまし	妬し	シク		○
ねだりがまし		シク		
ねつし	熱し	ク		
ねつたし	妬し	ク		ねたし
ねづよし	根強し	ク		
ねばがたし	粘固し	ク		
ねばし	粘し	ク		
ねぶし	眠し	ク		
ねぶとし	音太し	ク		
ねむし	眠し	ク		
ねむたし	眠し	ク		
ねんなし	念無し	ク		○
のこりおほし	残多し	ク		○
のこりなし	残無し	ク		○
のぞまし	望し	シク		
のどけし	長閑し	ク		○

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
のろし		ク		
のろのろし	呪呪し	シク		○
はえばえし	映映し	シク		○
はかし		シク		
はかなし		ク		○
はかばかし		シク		○
はからし		シク		
はかりなし	計無し	ク		○
はげし	烈し	シク		○
ばげばけし	化化し	シク		
ばけらし	化らし	シク		
はしかし	芒し	ク		
はしたなし		ク		○
はしなし	端無し	ク		
はちがはし	恥がはし	シク		
はちがまし	恥がまし	シク		○
はづかし	恥し	シク		○
はづかはし	恥かはし	シク		
はつしい		形		
はない		形		
はなはだし	甚し	シク		○
はなばなし	花花し	シク		
はなめづらし	花珍し	シク		
はばし	憚し・幅し	シク		
ばばし		シク		
はばやし	刃早し	ク		
はもろし	齒脆し	ク		
はやし	早し・速し	ク		○
はやばやし	早早し	シク		
はらあし	腹悪し	シク		○
はらくろし	腹黒し	ク		○
はらだたし	腹立し	シク		○
はるけし	遙し	ク		○
はれがまし	晴がまし	シク		○
はればれし	晴晴し	シク		○
ひきし	低し	ク		○
ひくし	低し	ク		
ひさし	久し	シク		○
ひじがまし	秘事がまし	シク		
ひすかし		シク		
ひだかし	日高し	ク		
ひだるし	饑し	ク		
ひとおそろし	人恐し	シク		
ひとがまし	人がまし	シク		
ひとこひし	人恋し	シク		
ひとし	人し	シク		
ひとし	等し	シク		○
ひどし	酷し	ク		
ひとしげし	人繁し	ク		○
ひとちかし	人近し	ク		○
ひとでなし	人で無し	ク		
ひとどほし	人遠し	ク		
ひとびとし	人人し	シク		○
ひとよし	人良し	ク		
ひとらし	人らし	シク		
ひとわるし	人悪し	ク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
ひねくさし	陳臭し	ク		
びびし	美美し	シク		○
ひやい	冷い	形		
ひらし	平し	ク		
ひろし	広し	ク		○
ひわかし	ひ若し	ク		○
びんなし	便無し	ク		○
ふかし	深し	ク		○
ふかし	深し	シク		○
ふがひなし	ふ甲斐無し	ク		
ふかぶかし	深深し	シク		
ふくふくし	福福し	シク		
ふすぼりくさし	穢臭し	ク		
ふとし	太し	ク		○
ふるくさし	古臭し	ク		○
ふるし	古し	ク		○
ふるし	古し	シク		○
ふんべつがまし	分別がまし	シク		
ふんべつらし	分別らし	シク		
へたくらうし	下手くらうし	シク		
へんなし	篇無し		小見出し	
ほいなし	本意無し	ク		○
ほこらし	誇し	シク		○
ほし	欲し	シク		○
ほそし	細し	ク		○
ほそだかし	細高し	ク		
ほそながし	細長し	ク		○
ほとけくさし	仏臭し	ク		
ほどなし	程無し	ク		○
ほねがまし	骨がまし	シク		
ほねなし	骨無し	ク		
ほねほねし	骨骨し	シク		
ほのぐらし	灰暗し	ク		○
ほれほれし	惚惚し	シク		○
ほろにがし	ほろ苦し	ク		
まがまがし		シク		○
まぎらはし	紛し	シク		○
まことがまし	実がまし	シク		
まことし	実し	シク		○
まことらし	実らし	シク		
まさし	正し	シク		○
まさなし	正無し	ク		○
まじろし	真白し	ク		
またうどし	真人し	シク		
またし	全し	ク		○
まだし	未し	シク		○
またなし	又無し	ク		○
まちかし	間近し	ク		○
まちどほし	待遠し	シク		
まちながし	待長し	ク		
まちびさし	待久し	シク		
まつおなじ	真同じ	シク		
まづし	貧し	シク		○
まつしろし	真白し	ク		
まつたし	全し	ク		またし
まつばなじ	真同じ	シク		

『時代別国語大辞典 室町時代編』の形容詞

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
まどし	貧し	シク		まづし
まどほし	間違し	ク		○
まばゆし	眩し	ク		○
ままし	継し	シク		
まめし		シク		
まめめし		シク		○
まるし	丸し	ク		まろし
まろし	丸し	ク		○
みぐるし	見苦し	シク		○
みこみこし	神子神子し	シク		
みじかし	短し	ク		○
みすぼらし	身窄し	シク		
みたうもなし	見たうも無し	ク		
みだりがはし	乱がはし	シク		○
みだれがはし	乱がはし	シク		○
みちれなし		ク		
みづくさし	水臭し	ク		
みつれなし		ク		
みともない	見ともない	形		
みにくし	見悪し・醜し	ク		○
みみがしまし	耳喧し	シク		
みみぢかし	耳近し	ク		○
みみとし	耳敏し	ク		○
みみどほし	耳遠し	ク		
みめよし	見目好し	ク		○
みやうもんがまし	名聞がまし	シク		
みよし	見好し	ク		
むくつけし		ク		○
むげつけなし	無下つけなし	ク		
むげなし	無下なし	ク		
むごし	慘し・酷し	ク		
むさくらうし		シク		
むさし		ク		
むさらし		シク		
むつかし		シク		○
むつまし	睦し	シク		○
むなし	空し	シク		○
めごとし	目敏し	ク		○
めざまし	目覚し	シク		○
めだかし	目高し	ク		
めたたし	目立たし	シク		
めだれがまし	目垂れがまし	シク		
めぢかし	目近し	ク		
めづらし	珍し	シク		○
めでたし	目出し	ク		○
めはづかし	目恥し	シク		○
めばやし	目早し	ク		
めやすし	目安し	ク		○
めらうがまし	女郎がまし	シク		
めんほくがまし	面目がまし	シク		
めんほくらし	面目らし	シク		
もつたいなし	勿体無し	ク		
もどかし		シク		○
もどかはし		シク		
ものあさし	物浅し	ク		
ものうし	物憂し	ク		○

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
ものがなし	物悲し	シク		○
ものがまし	物がまし	シク		
ものくさし	懶し・物臭し	ク		○
ものぐるはし	物狂し	シク		○
ものげなし	物気無し	ク		○
ものさびし	物淋し	シク		○
ものさわがし	物騒し	シク		○
ものすごし	物すごし	ク		
ものぶかし	物深し	ク		○
ものみだけし	物見猛し	ク		
ものものし	物物し	シク		○
ものよし	物吉し	ク		
もやすし	も易し	ク		
もろし	脆し	ク		○
やうがまし	様がまし	シク		
やうやうし	様様し	シク		
やかまし		シク		
やごとなし	止事無し	ク		やむごとなし
やさし		シク		○
やすげなし	安げ無し	ク		○
やすし	安し・易し	ク		○
やつやつし	窶窶し	シク		
やまし	病し	シク		○
やまひよわし	病弱し	ク		
やるかたなし	遣方無し	ク		○
やるせなし	遣瀬無し	ク		
やんごとなし	止事無し	ク		やむごとなし
ゆかし		シク		○
ゆくへなし	行方無し	ク		○
ゆひかひなし	言甲斐無し	ク		いひかひなし
ゆめがまし	夢がまし	シク		
ゆめゆめし	夢夢し	シク		
ゆゆし	忌忌し・由由し	シク		○
ゆるぎなし	揺無し	ク		
ゆるし	緩し	ク		○
ゆわし	弱し	ク		よわし
ゆゑゆゑし	故故し	シク		○
よごとし	夜聡し	ク		
よし	吉し・良し・善し	ク		○
よしなし	由無し	ク		○
よしよしし	由由し	シク		○
よそがまし	余所がまし	シク		
よそよそし	余所余所し	シク		○
よだけし		ク		○
よたたし	夜多し	シク		
よだるし		ク		
よぶかし	夜深し	ク		○
よろこばし	喜し	シク		○
よろし	宜し	シク		○
よわし	弱し	ク		○
よわよわし	弱弱し	シク		
よんどころなし	拠所無し	ク		
らうたし	劳甚し	ク		○
らうらうし	良良し	シク		
りりし		シク		
わかし	若し	ク		○

国際研究論叢

見出し語	漢字	活用	備考1	備考2
わかをさなし	若幼し	ク		
わざとがまし	態とがまし	シク		○
わづらうし	煩し	シク		
わづらはし	煩し	シク		○
わびし	侘し	シク		○
わらうべし	童し	シク		
わらべらし	童らし	シク		
わりなし		ク		○
わるくさし	悪臭し	ク		
わるし	悪し	ク		○
わるし	悪し	ク		○
わわし		シク		
ゑぐし		ク		
をかし	可笑し	シク		○
をぐらし	小暗し	ク		○
をこがまし	痴がまし	シク		○
をこをこし	痴痴し	シク		
をさながまし	幼がまし	シク		
をさなし	幼し	ク		○
をさなし	幼し	シク		○
をさをさし	長長し	シク		○
をし	惜し	シク		○
をそなし	幼し	ク		をさなし
をそなし	幼し	シク		
をとこらし	男らし	シク		
をなごらし	女らし	シク		

注1 従来の方針により、～まほし、～まうし、～べかしは形容詞としては採らない。

注2 「ことなし」には「事無し」と「殊無し」があり、従来は後者を見落としていたが、中世での使用が確認できたため、既存のものとして扱う。

注3 「少し」には、「すこしき」および「すこしく」という語尾変化したと捉えられる語形が存在するが、『日本国語大辞典』に従い、副詞として扱う。